

ハシント・トゥレビニョ

1910年前後、リオグランデの国境周辺では、男は殆ど例外なく銃を持ち歩いていた。尤もこの地域だけでなく、テキサス全域がそうであった。特に国境では凶悪犯罪が蔓延し、腐敗した政治のため、誰も法が自分を救ってくれるとは思っていなかった。人を殺した者は証言台の上で、相手の右手が銃を掴もうとしてポケットの方へ動いたと証言するだけで陪審員が無罪の判決をした。メキシコではポルフィリオ・ディアス政権が転覆された頃サンディエゴ計画を彷彿させるような事件が発生した。³¹

1911年5月、リオグランデに近いサンベニートでは数ヶ月に亘り一連の窃盗事件が発生していた。カメロン郡保安官セレドニオ・ガルサは対応に苦慮し、ハーリンジェンにあるレンジャーA部隊長フランク・ジョンソン大尉に救援を求めた。その翌日6月27日、事件は発生した。サンベニート水道会社の技師ジェームス・ダーウイン二十六歳が殺害された。会社の設備のあるリオグランデの河岸にある運河の取水口へ出勤する途中、何者かが至近距離から発砲、四十五口径の弾は頭部を貫通していた。捜査の結果犯人はハシント・トゥレビニョであると断定された。ハシント・トゥレビニョはメキシコの退役軍人ナティヴィダド・トゥレビニョ大尉の息子で、サンディエゴ計画攻撃の主要舞台となった河岸のロスインディオス近くに住み、小規模な牧場を営んでいた。当時多くのテハノがそうしたように、生計を立てるため弟をアングロの農場へ働きに出した。弟は何らかの理由で農場主と諍いになり、滅多打ちにされ翌日死んだ。³²

レンジャー側の記録によると前日、弟ではなくハシント自身が結婚して四ヶ月のダーウインの妻に近寄ったためダーウインにしたたかに殴られたとされている。動機は仕返しであった。水道会社は犯人の逮捕に五百ドルの懸賞金をかけた。トゥレビニョは対岸へ逃亡していた。ハシント・トゥレビニョを法によって裁こうと、懸賞金をかけるために尽力した主任技師サム・ロバートソンは間もなく自分が狙われることになった。ロバートソンに対する忠誠心からか、あるいは懸賞金目当てなのか、ロバートソンに彼が狙われている、と忠告した会社の従業員がいた。その名をパブロ・トゥレビニョと言い、逃亡者の従弟であった。ハシントと仲間が7月31日に侵入してきて翌朝通勤途上のロバートソンを狙う、とパブロは警告した。更に彼は丸太を路上に置いてロバートソンの車を立ち往生させる場所まで示した。ロバートソンはパブロの言葉を真に受けて保安官に届け出た。

保安官はハシントを捕らえる又とない機会だとして、レンジャース二人を中心に二人の保安官代理と水道会社の従業員四人からなる警備隊を直ちに組織した。7月31日の夜九時から十時ごろ、彼等は二台の車に分乗して出発した。警備隊は河岸の家まで来て車を下り、考えられる侵入路全てで待ち伏せするために四組に分かれた。レンジャー・カール・カーネスと保安官代理ベニー・ロウレンス、水道会社従業員ジョン・ゾールの三人は数メートルずつ離れて伏せたまま長い間待った。ゾールは数人の男が、灌木が開けたところからやってくる気配を感じて同僚に報告した。その夜は真っ暗で体の輪郭が見えるだけであ

った。ゾールによると保安官代理の誰かが近づいてくる男たちに向かってスペイン語で怒鳴った。ゾールには意味が分からなかった。誰かがそれに答えると同時に一斉射撃を浴びた。ロウレンスとカーネスは立ち上がるなり撃たれた。ロウレンスは即死、カーネスは致命傷を負った。ゾールはライフルが空になると命辛々逃げ、レンジャー・ジョン・クレイヘッドと保安官代理アール・ウエストが走ってくるのに出会った。クレイヘッドはゾールに家から電話で救援を呼ぶように命じると、ロウレンスとカーネスの救助に向かった。カーネスのうめき声が聞こえた。ウエストは近づいて助けようとライフルを地面に置いた途端に、ライフルがカチャッという音を聞いた。二人は地面に伏せピストルを抜いた。藪の中からライフルで撃たれ、二人は打ち返した。ウエストは重傷を負った。弾は右腕から入り背中に抜けた。射撃が止むとクレイヘッドは助けを求める決心をし、道路に出た。折よく車が近づいた。クレイヘッドは予ねて約束していた合図として空に向かってライフルを撃った。彼等はクレイヘッドを見つけると車から降りて一斉にクレイヘッド目掛けて撃ち始めた。彼等は直ぐに間違いに気付いた。クレイヘッドは左腿をライフルで撃ちぬかれ、右足をバックショットで撃たれていた。クレイヘッドとウエストはサンベニートの病院に運び込まれた。カーネスは翌朝九時に息絶えた。

夜明けとともにサンベニートから一団が待ち伏せ現場に向かった。彼等はパブロ・トゥレビニョの死体を発見した。ハシント・トゥレビニョ一味の足跡がリオグランデに向かっているのが見付かった。トゥレビニョと彼の右腕ベンハミン・エストラダはメキシコ革命の動乱の陰に隠れ、テキサス・レンジャースの執拗な追跡を逃れた。トゥレビニョはパブロ・ゴンザレス配下のカランサ軍ジェネラルとなり、エル・エバノでパンチョ・ビヤの北部師団を迎え撃ち、カランサ派にとって最も重要な石油地帯であるタンピコの防衛に成功し、カランサ軍勝利に貢献した。³³

31. Charlehs H. Barris III and Louis R. Sadler, "Texas Rangers and the Mexican Revolution",

University of New Mexico Press, 2002, P40

32. Benjamin Heber Johnson, "Revolution in Texas, How a Forgotten Rebellion and its Bloody

Suppression Turned Mexicans into Americans", Yale University Press, 2003 P54

33. Charlehs H. Barris III and Louis R. Sadler, "Texas Rangers and the Mexican Revolution",

University of New Mexico Press, 2002, P41